

研究課題（テーマ）		低年次生からの県内企業見学による学生と教員の企業認知度向上	
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	機械システム工学科	学科長	真田和昭
実施担当者	機械システム工学科		機械システム工学科全教員
研究結果の概要			
機械システム工学科では3年前から県内企業見学を積極的に行ってきた。富山県は機械関連企業が多く、機械の学生の就職を望む企業が非常に多い。さらに最近では医薬、食品、化学といった一見、機械と関連のない企業からの就職を望む声も多い。そこで、本教育プログラムでは県内企業への就職を促進するために機械の1年次～4年次、院1年次を対象として県内企業見学を実施した。今回の企業見学の特徴は、従来、冬季2月と3月に行っていた企業見学に加えて、夏季9月にも県内企業を行った点である。実績としては9月は9/3 シロウマサイエンス、北陸建工（本社工場）、北陸鋼産（北野工場）、9/6 日本高周波鋼業（富山製造所）、五洲薬品（千里工場）、天龍工業、9/9 コマツ NTC（福野工場）、東亜合成（高岡工場）の計8社（参加学生23名）。2月、3月は2/21 サンエツ金属、BBS ジャパン、タカギセイコー（新湊工場）、2/28 三協立山（新湊工場）、新日本海重工業、北陸プラントサービス（新港事業所）、3/5 北陸建工グループ、リッチェル、中越精器、3/11 陽進堂 HD、朝日印刷（富山工場）、ヤマシタ、3/14 中越合金鋳工、村井工業、石金精機、3/18 シロウマサイエンス、ビニフレイム工業、藤堂工業、3/24 コマツ NTC（福野工場）、中原化成品工業、3/26 ユニゾーン、北陸電気工業、バイホロンの計23社（参加学生60名）であり、令和6年度では県内企業見学31社、参加学生83名となった。引率教員は3名であり、企業の事業内容を理解できた。 講義（形状モデリング演習、2年生必修）での県内企業のモノづくりについての講演実績は7/22 シロウマサイエンス、コマツ NTC、7/29 日本高周波鋼業、8/5 北陸建工、北陸鋼産の合計5社である。 機械システム工学科では県内企業見学を令和4年から実施しているが、県内企業名と事業内容については年々、学生の認知度が上がっている。令和6年度については現在、アンケートを実施しており集計は未だであるが、見学会中に参加学生に聞いた意見では将来の就職先を考える上で役に立ったという感想が多かった。また、今回企業見学に協力頂いた企業の社長様や人事担当者様からも県内企業見学の継続希望の声が多く、県立大学からの人材供給に対する期待は高かった。			
今後の展開			
今年度は県内企業見学を夏季と冬季に実施したが、課題も多く見られた。夏季は猛暑で見学中に体調不良を訴える学生が出たことや、冬季では風邪やインフルエンザで当日にキャンセルを申し出る学生も多くいた。また、機械の1年次～4年次、院1年次に参加の案内を行っているが、機械工学を学ぶ意義や将来の就職先を考える上で企業を知ることは重要であるという趣旨を理解してくれる学生は少なく、今後、如何に学生に理解させるかが課題と言える。令和6年度は講義での企業のモノづくりを聞いて、興味を持って企業見学に参加する学生がいたため、令和7年度は、トピックゼミと企業見学をリンクさせて県内企業見学を行う予定である。			